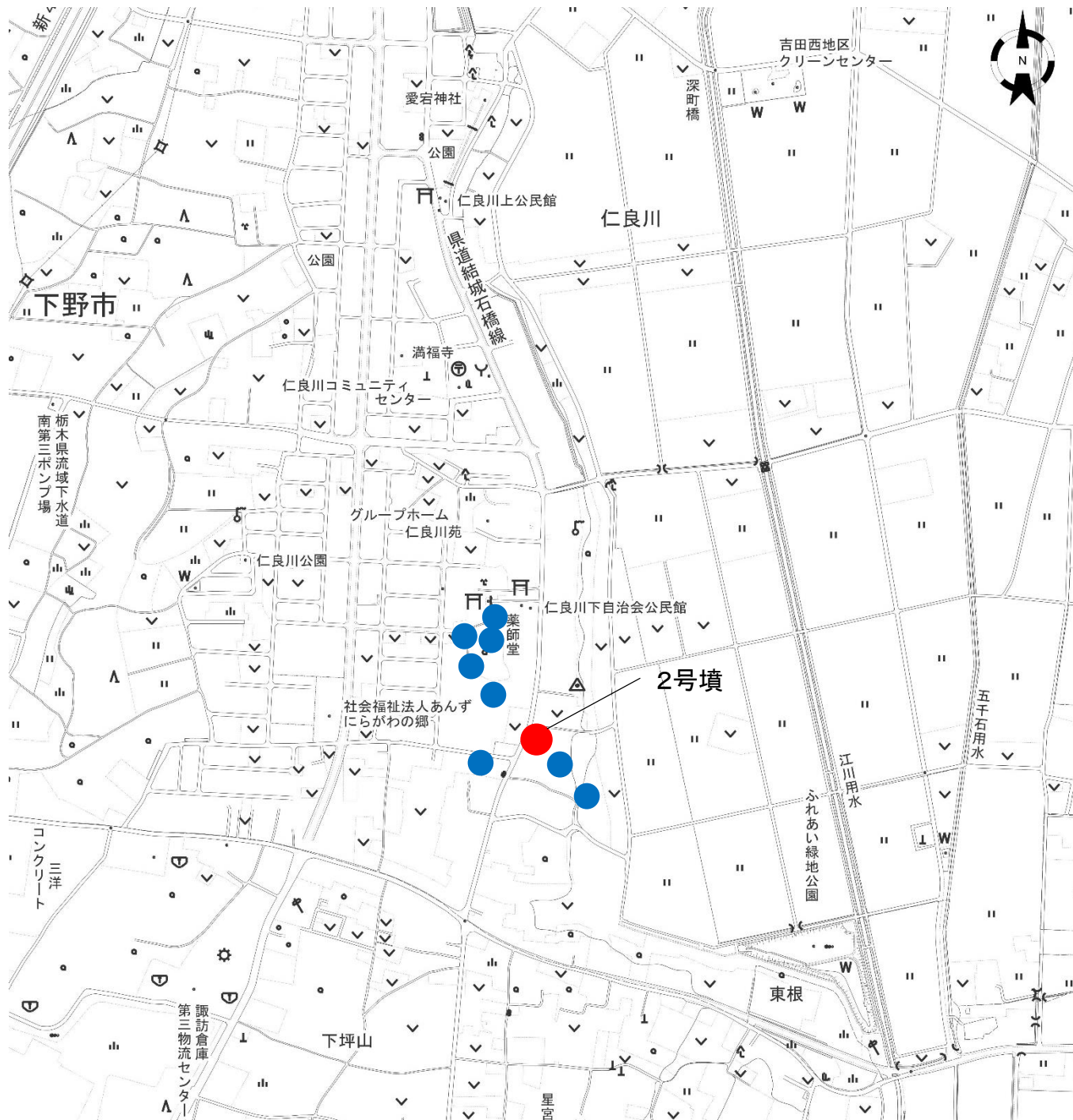


仁良川古墳群2号墳の発掘調査

所在地: 下野市仁良川

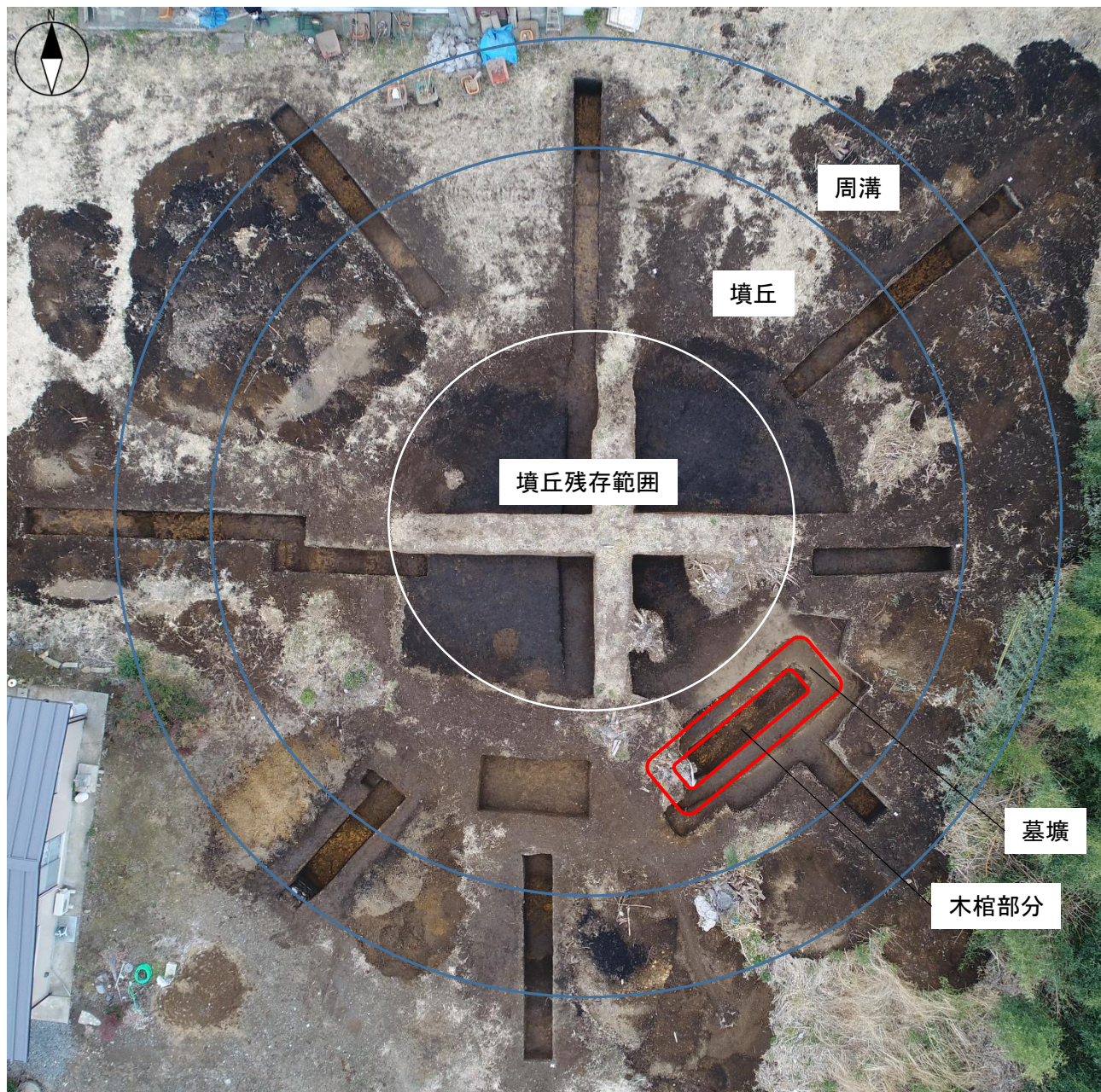
調査の原因: 区画整理事業に伴う

調査期間: 令和2年11月24日～令和3年2月12日



仁良川古墳群は、田川西岸の台地上に南北約1.5kmの範囲に所在しています。これまでの発掘調査などにより10基の古墳が確認されていますが、前方後円墳は無く、全て円墳で、大きさは10mから30m程度です。

埋葬施設は横穴式石室のものが多く、2号墳及び3号墳のみが竪穴による木棺直葬であることがわかっています。3号墳は形象埴輪を含む埴輪を持ち、未盗掘の埋葬施設から直刀・銅釧・耳輪や玉類が出土しています。これらのことから、仁良川古墳群は6世紀の中葉から7世紀前半に築造されたと考えられています。



2号墳は調査実施前の現況で南北約12m、東西約14mの不整な楕円形状で高さが約1.5mの墳丘が残されていました。発掘調査を実施した結果、墳丘の大きさは直径が約25mの円形で、周溝の幅が3m程度、周溝外縁の直径が約32mであることが判明しました。また、墳丘は古墳が造られた当時の地表から約1.7mの高さまで残っていることも分かりました。

埋葬施設は、墳丘盛土のない周溝内側南東部でみ分かりました。一般的には墳丘上に設置されますが、今回の調査では後の時代の盗掘の痕跡とみられる箇所はありましたが、埋葬施設の痕跡を確認することはできませんでした。



調査前現況



墳丘断面

埋葬施設

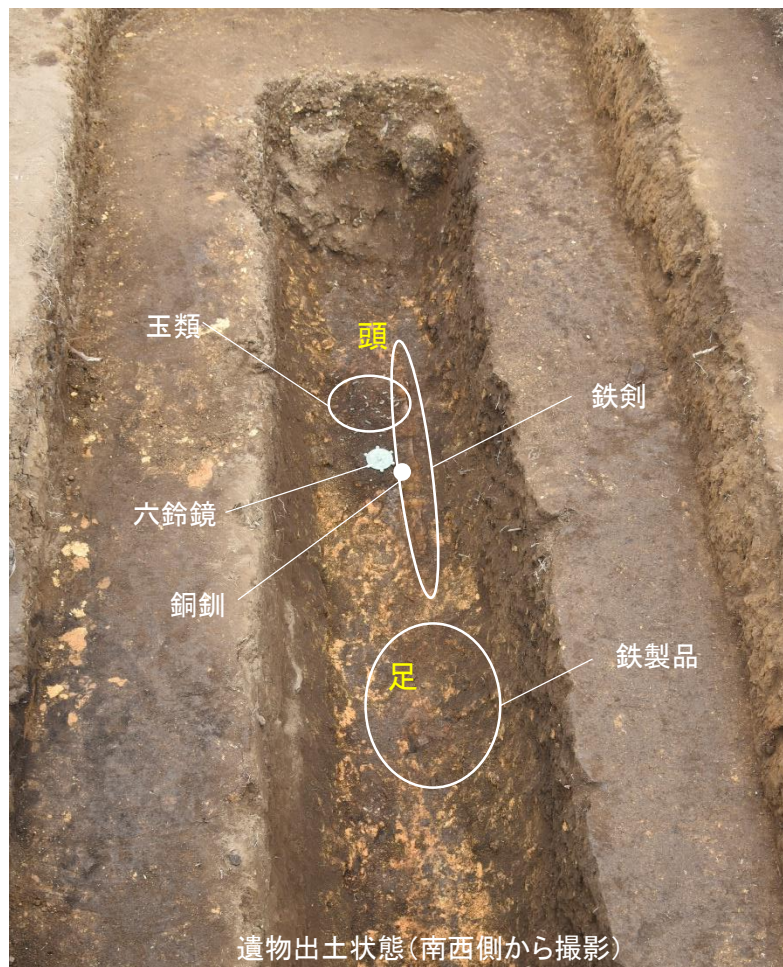
埋葬施設は、墳丘上ではなく、南東側の墳丘裾から竪穴系の埋葬施設が発見されました。この埋葬施設は、長さ約6.5m、幅約2.5mの墓壙を掘り、そこに割竹型木棺を置いて、小口部分と木棺の上部を白色粘土で覆った後、埋め戻したものです。木棺の推定の大きさは長さが約5m、幅が約1mの巨大なものですが、内部には1人しか埋葬されません。

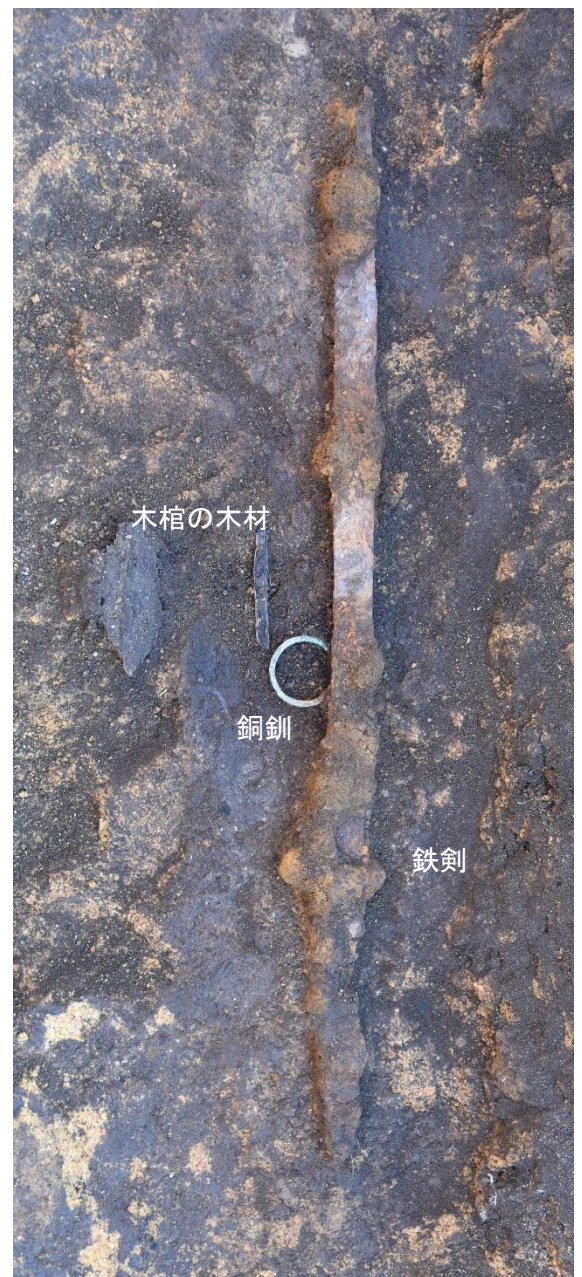


出土遺物

埋葬施設は、未盗掘であったことから、副葬品がほぼ埋葬されたまま見つかりました。主な遺物としては、銅鏡(六鈴鏡)1面、鉄剣1振(全長約110cm)、銅釧(腕輪)1点、鉄鏃、勾玉27点、管玉31点、ガラス玉約500点等です。

出土した遺物から、埋葬された人の位置と副葬品の位置をほぼ特定することができます。例えば鏡は胸から腹のあたり、勾玉等の玉類は首周辺、銅釧が鉄剣の下から出土したことから、鉄剣を左手で抱えた状態であったことが分かります。また、鉄鏃等の鉄製品は足元に置かれていました。





今回発見された六鈴鏡は、市内からはこれまでに見つかっていません。鈴鏡は後期(6世紀)の古墳から見つかることが多く、市内では別処山古墳(6世紀)の三鈴鏡や石橋地区から出土したとされる五鈴鏡が知られています。

この古墳は、古墳を築造した当時の地面(旧表土)が墳丘下から見つかっており、この旧表土上面に6世紀初頭に噴火した際の火山灰である榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)がごく薄く堆積していることから、古墳が造られたのは榛名山の噴火直後である6世紀初頭と考えることができます。